

新しい直売用野菜の栽培法



平成19年3月
愛知県農業総合試験場

新しい直売用野菜の栽培法

目 次

新しい直売用野菜の活用法	1
--------------	---

平坦地における栽培方法

ミニカボチャ（ウリ科）	4
茶豆系エダマメ（マメ科）	6
ソラマメ（マメ科）	8
ミニハクサイ（アブラナ科）	10
半結球レタス（キク科）	12
ミニダイコン（アブラナ科）	14
サラダゴボウ（キク科）	16

中山間地における栽培方法

スイートコーン（イネ科）	20
大粒黒大豆（マメ科）	22
ソラマメ（マメ科）	24
食用ユリ（ユリ科）	26
エゴマ（シソ科）	28

担当 企画普及部広域指導グループ（新しい直売用野菜の活用法）
園芸研究部特産野菜グループ（平坦地における栽培方法）
山間農業研究所園芸グループ（中山間地における栽培方法）

新しい直売用野菜の活用法

輪作を考えた作付け

- ・ 同じ分類の仲間を知りましょう。
- ・ 同じ仲間を同じ所で栽培しないように、年ごとにローテーションさせた作付け計画を立て、土壌病害などによる連作障害の発生を予防しましょう。
- ・ 特にマメ科、ナス科、ウリ科は連作障害が発生しやすいため、3～5年あけましょう。
- ・ 果菜類での接ぎ木や、抵抗性品種の利用などによって連作障害をある程度回避できる場合もあります。
- ・ ほ場が空く場合には、ソルゴー（イネ科）などの緑肥の作付も有効です。
- ・ 毎年の春作と秋作の作付状況を記録して、考えてみてください。

主な野菜の分類

ウリ科	カボチャ	キュウリ	スイカ	メロン	ニガウリ	
ナス科	トマト	ナス	ピーマン	トウガラシ	ジャガイモ	
マメ科	エダマメ	ソラマメ	エンドウ	インゲンマメ	ササゲ	落花生
セリ科	ニンジン	ミツバ	セリ	セルリー	アシタバ	
アブラナ科	ハクサイ	ダイコン	ブロッコリー	カリフラワー	チンゲンサイ	
	キャベツ	カブ	ワサビ	クレソン	コマツナ	ナバナ
イネ科	スイートコーン	サトイモ科	サトイモ	アカザ科	ハウレンソウ	
ユリ科	食用ユリ	ニンニク	タマネギ	ネギ	ニラ	アスパラガス
キク科	レタス	ゴボウ	シュンギク	フキ	アオイ科	オクラ
シソ科	エゴマ	シソ	バラ科	イチゴ	ヒルガオ科	サツマイモ

特徴を活かした栽培

- ・ それぞれの野菜の特徴を十分に知り、栽培のポイントに基づく適切な管理作業により、美味しい野菜を作りましょう。
- ・ 適切な施肥、好天が続いた時の灌水、病害虫発生時の適期防除も大切です。
- ・ 収穫適期を逃さないように注意しましょう。

最近の消費者の意識

- ・ 消費者に対するアンケート調査（H16愛知県）結果から、野菜の購入時に求める内容の順位は以下のとおりでした。全国での調査結果の傾向とも一致していました。
1：鮮度（87%） 2：価格（45%） 3：国産・外国産の別（31%） 4：安全性（28%）
これを踏まえ、野菜という商品を販売できるよう、以下のような取り組みを進めましょう。

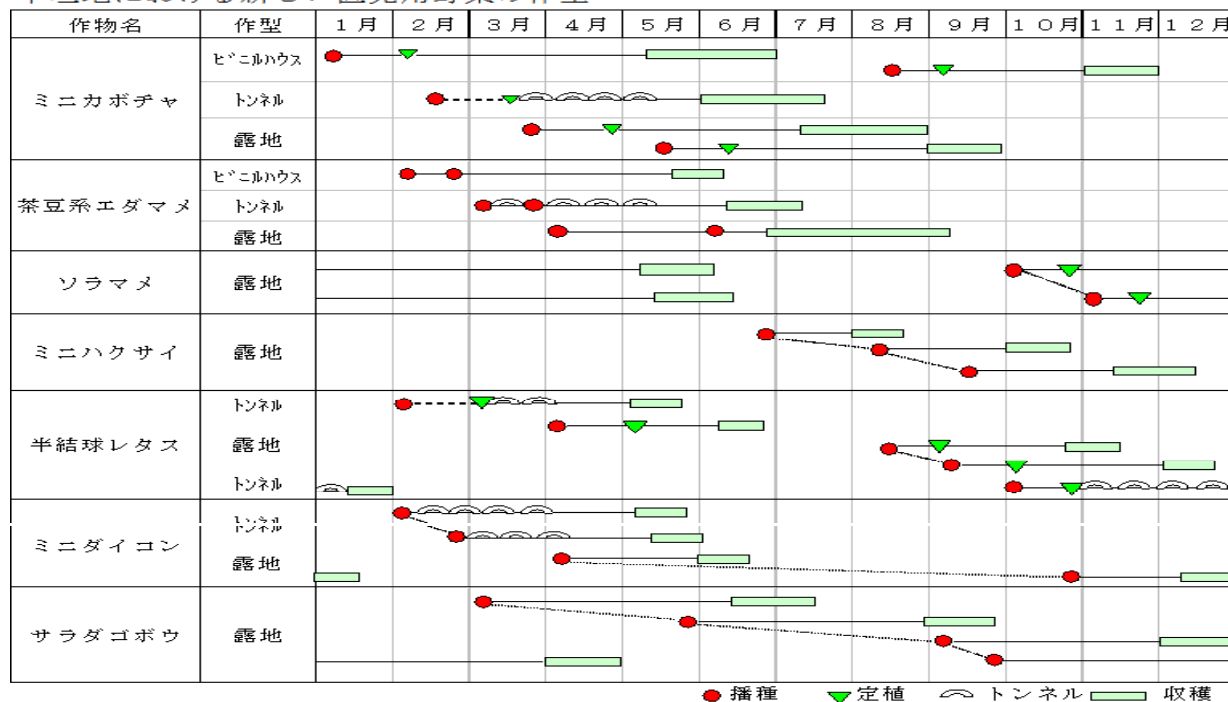
旬と鮮度を活かした販売

- ・ 旬はそれぞれの野菜の消費に適した時期です。それに合わせるように播種や定植作業を進め、多く販売できるようにしましょう（次ページ図参照）。
- ・ 収穫では朝どりを励行し、速やかに調製して販売しましょう。
- ・ 朝どりを行うことで品温を上げずに、短時間で食卓に提供することで、それぞれの野菜の糖度やビタミンなどの栄養価の消耗を少なくでき、美味しく食べてもらえます。

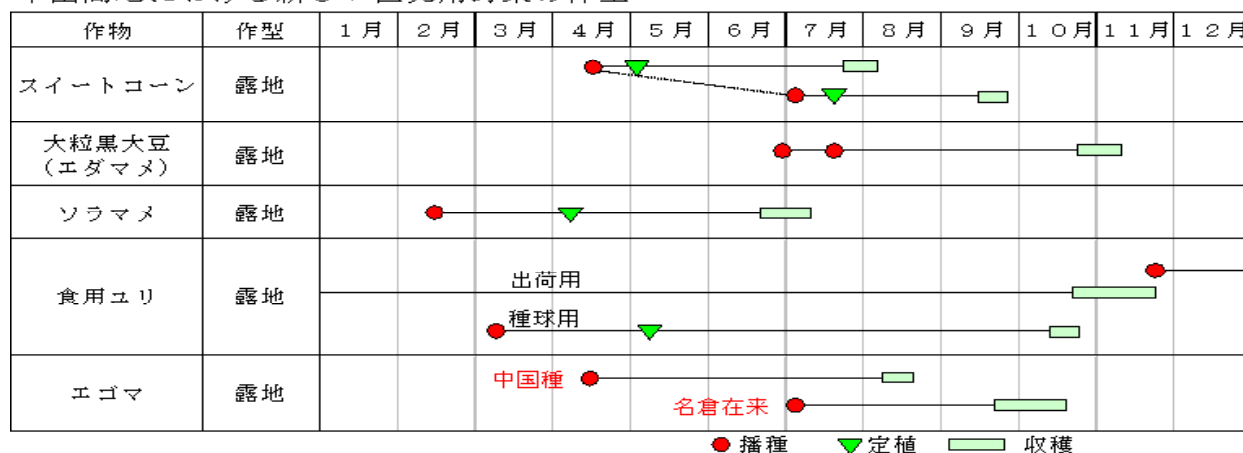
価格設定の工夫

- ・ 最近の消費者の購買行動は、「便利で無駄なく、値ごろな価格で」が、主流になってきています。
- ・ 商品規格などの工夫により、値ごろ感のある価格設定にしたいものです。

平坦地における新しい直売用野菜の作型



中山間地における新しい直売用野菜の作型



安全な野菜の提供

- ・ 近年、安全な野菜が強く求められるようになってきました。以下の点に特に留意し、安全な野菜を提供しましょう。
- ・ 適正な農薬使用は当然なことで、農薬散布時のドリフトにも注意が必要です。また、病原微生物（O157など）や異物の混入（髪の毛、昆虫、小石など）などにも十分対処する必要があります。

その他の工夫

- ・ エゴマやユリ根、ロメインレタス、あなたならどう食べますか？ 食べ方のわからない野菜をあなたは買いますか？ きっと買わないでしょう。消費者の視点で考えてみるのが大切です。簡単なレシピのポップ、食べてみたいと思わせる調理した写真など、新しい野菜では、食べ方の提案が大切です。
- ・ 他にも、野菜の特徴をPRするためのポップの掲示、野菜の名前にちょっとした工夫を試してみるのもいいでしょう。きっと、これらのこと以外にも、いろいろな工夫があるはずです。

平坦地における栽培方法

ミニカボチャ

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ビニールハウス	●	▼				■						
トンネル		●	▼	⌒	⌒	⌒	■					
露地			●	▼		●	▼	■		■		

● 播種 ▼ 定植 ⌒ トンネル ■ 収穫

特徴

ミニカボチャは重さ300～700gの小さなカボチャで、1株から10個程度収穫できます。粉質でホクホクしており、甘みが強く、ラップに包んで電子レンジで丸ごと加熱するだけで、美味しく食べられます。

ミニカボチャは普通のカボチャと同様に栽培することができますが、アーチパイプやトンネル支柱にネットをかけたたり、写真のように支柱（高さ135cm）にネットを垂直に張って、空中に果実を付ける立体栽培もできます。立体栽培では、果実はやや小さくなりますが、果皮はきれいになり、栽植本数を多くできるため、面積当たりの収量を増やすことができます（表1）。

栽培技術

1 品種

緑から黒緑色の果皮色：坊ちゃん（協和種苗）、栗坊（サカタのタネ）

ほっこり姫（タキイ種苗）

黄色や赤色の果皮色：プッチーニ（サカタのタネ）、朱姫（ナント種苗）

2 播種

ポリポットを用い、1粒ずつポットに直まきし、カボチャの発芽適温25～28を目安に保温または加温します。

3 施肥

カボチャは吸肥力が強いいため、窒素過多によるつるぼけに注意します。施肥は、地這い栽培の場合、窒素成分で1.0～1.5kg/a程度を目安にします。立体栽

培では、単位面積当たりの栽植本数が多くなるため、施肥量も多めにします。

4 定植

8.5cmポリポットを用いた場合は、本葉0.5～1枚の頃、10.5cmポリポットを用いた場合は、本葉3～4枚の頃が定植適期になります。栽植密度は、地這い栽培では株間1m、畝間3m程度、立体栽培では株間1m、畝間1.5m程度とします。

5 定植後の管理

カボチャは霜に弱いため、霜のおそれのある時期には、トンネルかホットキャップを利用します。本葉4～5枚時に親づるの摘芯を行い、子づる2～3本仕立てとします。

6 病虫害防除

カボチャのウイルス病は、アブラムシによって伝搬するため、アブラムシの防除と罹病株の抜き取り処分を行います。

うどんこ病は栽培初期から予防に努めます。

7 収穫

開花後35～45日で収穫適期となります。果梗部がコルク化して縦方向のひび割れが収穫の目安となります。

表1 収量調査結果(2006年)

栽培方法	栽植密度 株/a	収穫重量		一果重 g
		kg/1株	kg/m ²	
立体	67	4.1	2.7	400
地這い	33	5.9	1.9	479

品種：ほっこり姫



キュウリネットを用いたミニカボチャの垂直誘引の栽培状況

茶豆系エダマメ

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ビニルハウス		● ●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
トンネル			● ●	● ●	● ●	● ●	—	—	—	—	—	—
露地				●	—	—	●	—	—	—	—	—

● 播種 ◡ トンネル ■ 収穫

特徴

未成熟種子を食用とするエダマメは、呼吸が旺盛で収穫直後から品質が急速に劣化します。このため、直売では、市場流通で時間の経ったものや、海外の冷凍ものにはない新鮮さ、旨さという付加価値により有利販売ができます。さらに、茶豆は普通のエダマメに比べて香りが高く旨みがあるため、味で差別化できる品目といえます。

栽培技術

1 品種

山形県や新潟県で生産される在来品種の茶豆は、中生または晩生のため収穫時期が秋口以降となりますが、近年これら茶豆の特性をとりいれた早生品種が育成されています。早生品種を用いれば、茶豆系エダマメも普通のエダマメと同様の栽培期間で収穫することができます。

主な品種：夏の調べ、夏の声（サカタのタネ）、福成（タキイ種苗）

味太郎（雪印種苗）、味かおり茶豆（松永種苗）

2 播種

エダマメの発芽適温は 20 ～ 30 であり、直播きでは地温の確保できる4月以降の播種となります。エダマメの根の生育は 12 以下で阻害を受けるため、低温期に育苗する場合は、ハウス内にトンネルを設置して保温し、地温を確保します。

3 施肥

エダマメは根に根粒菌が着生して空気中の窒素固定を行うため、窒素成分は

少なくてすみます。窒素過多にすると過繁茂となり、着夾不良を招きやすいので、前作の残肥も考慮して窒素施肥量を決めます。施肥は窒素成分で0.5～1.0 kg/a程度を目安に、基肥を主体に施用します。

4 定植

直根性の作物であるエダマメは、定植が遅れると根傷みしやすく生育不良の要因となるため、適期定植が重要です。子葉の次にできる2枚対称の円い初生葉が展開し、本葉が見え始める時までに定植します。

5 定植後の管理

エダマメは最低気温が8℃以下になると生育に障害が発生しやすく、着花、着夾には15℃以上が必要となります。低温期にはビニルトンネル被覆や不織布のべたがけをして保温に努めます。

6 病虫害防除

シロイチモンジマダラメイガやダイズサヤタマバエのように莢の中に潜り込む子実害虫に食害されると被害が大きくなるので、注意します。

1 mm目合いの防虫ネットをトンネル被覆すると、農薬を使わないで子実害虫を防除することができます(表1)。

7 収穫

収穫適期が短いため、莢が変色しないうちに収穫します。収穫が遅れると子実が硬く莢が黄変し、食味が落ち、商品性が著しく低下します。

表1 虫害莢数調査(2006年)

莢数/株

区 分	健全莢 個数 (%)	虫害莢 個数 (%)	虫害種類別莢数			
			フタジ ヒメムシ	ダイズサ ヤタバエ	シロイチモンジ マダラメイガ、その他 ヤムシガ類	不明
ネット被覆	51.1 (99)	0.6(1)	0.3	0.1	0	0.2
薬剤散布	55.1 (79)	14.5(21)	0.4	8.9	4.8	0.4
無防除	34.8 (55)	29.0(45)	7.1	8.8	12.6	0.5

ソラマメ

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地					■					●	▼	
					■					●	▼	

● 播種 ▼ 定植 ■ 収穫

特徴

ソラマメは硬くなる前の未成熟種子を食用とするため、呼吸が旺盛で収穫後の糖含量は急速に減少します。収穫2日後には糖含量が半減するほど、食味の低下が早い作物です。このため、直売のソラマメは、市場流通で時間の経ったものにはない新鮮さ、旨さという付加価値により有利販売ができる品目です。また、ソラマメは収穫期以外は比較的労力のかからないのも魅力です。

栽培技術

1 品種

三連、一寸大蚕豆（タキイ種苗）、陵西一寸（協和種苗）

2 播種

ソラマメは直播きもできますが、育苗すれば発芽不良による欠株の問題もなく、アブラムシ等、幼苗期の病害虫を回避しやすくなります。播種は、へそ（おはぐる）を下に向けて差し込み、覆土はタネが隠れる程度とします。土が過湿になるとタネが腐りやすいので注意します。

ソラマメの耐寒性は、幼苗期のうちは強く、生育が進むと弱くなるため、生育の進んだ株は寒害を受けやすくなります。このため10月に播種し、本葉5枚程度で越冬させます。

3 施肥

基肥は窒素成分で0.4kg/a程度とし、追肥は12月初旬、2月初旬と生育が

盛んとなる3月中旬にそれぞれ窒素成分で0.3kg/a程度を施用します。

4 定植

定植は、本葉2～3枚の頃、10月下旬から11月に行います。栽植密度は株間40～45cm、畝間1～1.5m程度とします。

5 定植後の管理

分枝の生育が旺盛になる3月中旬に弱い分枝をかき取り、太くて節間の詰まった枝5～8本に整理します。なお、生育の弱い場合は放任栽培とします。

6 病虫害防除

アブラムシによって伝搬するウイルス病を防ぐため、アブラムシ防除の徹底と罹病株の抜き取り処分を行います。

7 収穫

ソラマメは収穫適期が短く、適期を逃すと食味が落ちるため、適期収穫に努めます。子実がしっかり詰まり、さやに光沢がでて下向きになり、背すじが黒くなったら収穫します。収穫適期のマメは、へその部分が黄色く中央に黒い線が入っています。へそ全体が黒くなっていれば、穫り遅れ、緑色であればまだ早い状態です。

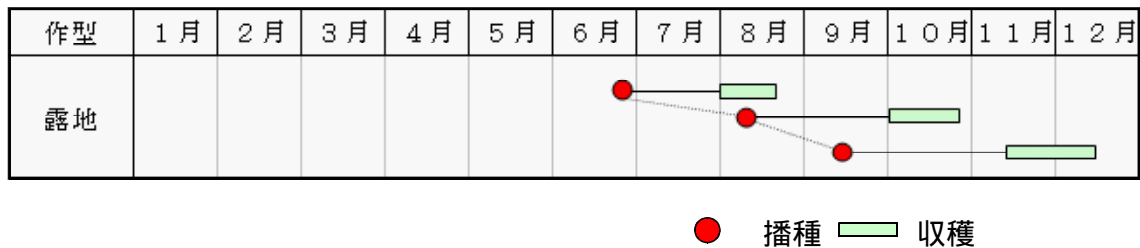


収穫時期の栽培状況



収穫適期（左側）と穫り遅れ（右側）のソラマメ

ミニハクサイ



特徴

核家族化や食生活の変化により、普通のハクサイ1個は、家族が一度に消費するには大きすぎるため、スーパーマーケットでは2分の1や4分の1にカット販売されています。重さ500～1000gのミニハクサイは、消費者が丸ごと購入できる手頃な大きさで、カットされたものより鮮度の低下が少ないハクサイとして差別化できる品目です。

栽培技術

1 品種

青海（サカタのたね）、お黄にいり（タキイ種苗）、愛媛（渡辺採種場）、レタサイ（野崎種苗）、舞の海（トキタ種苗）、ちっちゃい菜（野崎種苗）、チャボ（協和種苗）、ミニ黄作50（丸種）

2 施肥

栽培期間が短いため、施肥は基肥を主体に窒素成分で1.5～2.0kg/a程度を目安にします。施肥量は普通のハクサイより少なめになります。また、ハクサイは石灰欠乏症が発生しやすいため、石灰肥料を施します。

3 播種

直播き栽培の場合は、一か所に5粒の点まきとします。株間は20～25cm程度で、普通のハクサイの2倍程度の密植栽培ができます。

ミニハクサイは温床育苗を行えば春まきができますが、盛夏から秋まきに適

した品種が多くなっています。

4 栽培管理

間引きは2、3回に分けて行い、一本立ちにします。

ハクサイは直根性の作物なので、育苗して定植する場合は若苗を用います。

土壌の乾燥は石灰欠乏症の原因となるため、土壌水分の適正管理に努めます。

5 病虫害防除

主な病気は、軟腐病、べと病、根こぶ病等です。根こぶ病はアブラナ科野菜を連作すると発生しやすく、気温が高く、雨の多い年や排水不良のほ場では軟腐病が発生しやすいため、予防に努めます。

主な害虫は、アブラムシ、コナガ、ハスモンヨトウ等で、これらの発生に注意します。

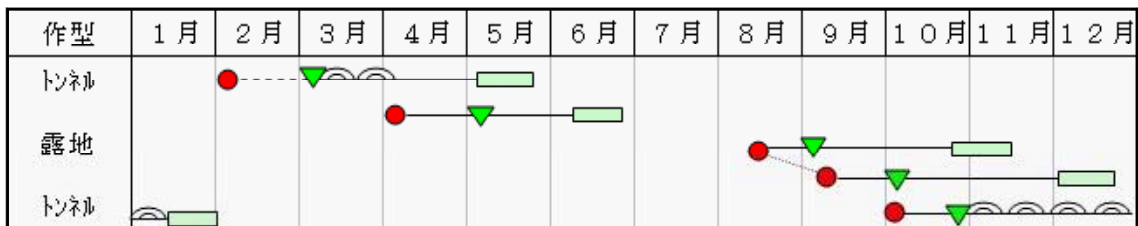
6 収穫

品種により生育期間は異なりますが、普通のハクサイに比べて生育期間は短く、播種後40～60日程度です。品種ごとの大きさや生育期間を目安に収穫します。収穫が遅れると品質が低下するため、適期収穫に努めます。



ミニハクサイの栽培状況（品種：青海） ミニハクサイ（品種：お黄にいり）
と普通のハクサイ（品種：黄ごころ）

半結球レタス



● 播種 ▼ 定植 ☞ トンネル ☞ 収穫

特徴

レタスには最も一般的な玉レタス、結球しないリーフレタス、細長く紡錘形に半結球する半結球レタスの3つの仲間があります。このうち半結球レタスは、コスレタスやロメインレタスと呼ばれるもので、シーザーサラダによく使われます。玉レタスと比べてパリパリとした食感があり、味にコクがあるのが特徴で、サラダの他、炒め物や煮物に向きます。

栽培技術

1 品種

コスレタス(タキイ種苗)、コスタリカ2号、コスタリカ4号(サカタのタネ)、リバーグリーン(サカタのタネ)

2 播種

レタスは高温によりチップバーン(葉のふちが枯れる)や抽苔(花芽がつくこと)が発生するため、露地栽培の春作では3月下旬から4月上旬まで、秋作では8月中旬から9月上旬の播種になります。

レタスは好光性種子で、覆土が厚いと発芽不良となるため、覆土は薄くします。

3 施肥

施肥量は、窒素成分で1.0~2.0kg/aを目安に、基肥を主体に施用します。レ

タスは酸性に弱いため、石灰を10kg/a程度施用します。

4 定植

定植は本葉3～4枚の苗を用います。栽植密度は品種によって異なりますが、株間20～30cm程度とします。

5 定植後の管理

低温期には黒ポリマルチ栽培とし、不織布のべたがけやビニルトンネル被覆を行います。

6 病虫害防除

アブラムシは葉と葉の間にはいると防除が難しく、ウイルス病も媒介するので注意します。夏から秋にかけてはオオタバコガやハスモンヨトウの食害に注意します。

7 収穫

播種後70～90日を目安に、軽く結球した頃に収穫します。



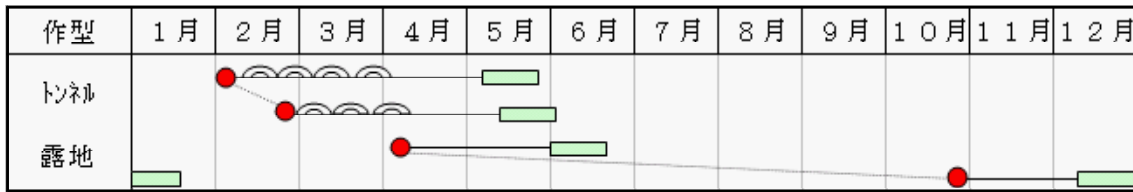
品種：リバーグリーン



品種：コスタリカ4号

半結球レタス（左）とロメイン系半結球レタス（右）の栽培状況

ミニダイコン



● 播種 ⌒ トンネル ■ 収穫

特徴

核家族化や食生活の変化により、家庭では丸ごと1本のダイコンを使いきれないことが多く、スーパーマーケットではカット販売が多くなっています。カットされたダイコンは、みずみずしさが失われるなど鮮度の低下が早くなります。ミニダイコンは、一回の調理に1本を使い切ることのできる手頃なダイコンとして、また、サラダ、浅漬け、薬味など、食べ方にも特徴のある品目として注目を集めています。ミニダイコンは大きさや色も様々で、味も甘みのあるもの、辛味のあるもの、辛味の強いものなどいろいろあります。

栽培技術

1 品種

甘いダイコン：ホワイトスティック、赤サラダ大根（ナト種苗）、江都青長、天安紅心、ころ愛（サタの妹）、ちび助（福種）、味ちびこん（松永種苗）、ミディ大根（ナト）

辛味のあるダイコン：雪美人（サタの妹）、おいばね、たんしん（ナト種苗）

辛味の強いダイコン：辛丸（サタの妹）、辛味199（ナト種苗）、辛味大根（武蔵野種苗）、くろ丸君（福種）、辛味大根からいね（渡辺採種農場）

2 施肥

施肥は基肥を主体に窒素成分で1.0kg/a程度を目安にし、マルチ栽培では全量基肥とします。多肥栽培は茎葉が過繁茂になり、す入り、根の曲がり、裂根の原因となるので注意します。

3 播種

播種は一か所に 2 ~ 4 粒の点まきとします。ミニダイコンは品種により根や茎葉の大きさが異なるため、品種にあわせた栽植密度としますが、普通のダイコンより密植で栽培できます。ダイコンは12 以下の低温に一定期間遭遇すると花芽分化が起こり、とう立ち（抽苔）します。春まきをする場合には、とう立ちの遅い晩抽性の品種を選びます。

4 栽培管理

間引きは本葉 3 ~ 5 枚展開時に行い、1 本立ちにします。

土壌の過湿や過乾は、裂根や横シマ症の原因となるため、土壌水分の適正管理に努めます。

5 病虫害防除

主な病気は、黒斑細菌病、軟腐病、べと病、黒腐病等で、主な害虫は、アブラムシ、ハイマダラメイガ、コナガ、ヨトウムシ、キスジノミハムシ等です。

初夏から盛夏にかけての栽培では、キスジノミハムシ等害虫の被害が大きくなりますが、9月中旬以降の栽培では虫害が少なくなります（表1）。

6 収穫

収穫が遅れると根形が乱れたり、す入りが多くなるため、適期の収穫に努めます。

表1 播種日別の虫害率(2005年)

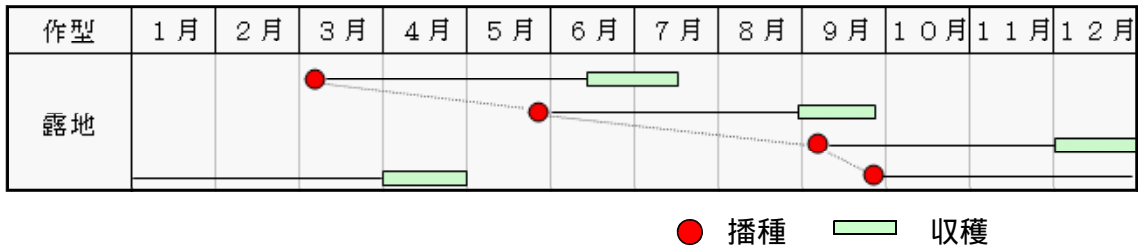
播種日 (月日)	調査日 (月日)	根重 (g)	虫害率
3月31日	5月19日	369	1
4月27日	6月14日	312	2
6月9日	8月11日	209	9
9月12日	11月2日	298	0
10月3日	12月11日	423	0

注)虫害率はキスジノミハムシによる根部食害の表面積率(0:無 10:全面積)
品種: 杓付スティック



様々な色や形のミニダイコン

サラダゴボウ



特徴

サラダゴボウは、根の長さ25～40cmと短く、スコップで簡単に掘り取ることができます。また、ゴボウに向かない水はけの悪い畑でも、高めに畝立てをすれば栽培できます。

サラダゴボウは白肌でアクが少ないため、一般的な調理方法の他、サラダにも向きます。

栽培技術

1 品種

サラダむすめ（タキイ種苗）、ダイエット（サカタのタネ）、ヘルシー（松永種苗）

2 施肥

施肥は窒素成分で1.0kg/a程度を目安に施用し、生育後半まで肥料を切らさないようにします。ゴボウは酸性に弱いため、苦土石灰を施します。

3 播種

ゴボウは連作に弱いため、連作を避け、連作する場合は土壌消毒を行います。栽植密度は品種によって異なりますが、うね幅60cm、株間3～10cm程度とします。すじまきか1か所2～4粒の点まきとし、薄く覆土します。

4 栽培管理

間引きは本葉3～4枚展開時に行い、1本立ちにします。

5 病虫害防除

病気は黒斑細菌病やうどんこ病などが、害虫はアブラムシ、ネキリムシ、ヨトウムシなどが発生します。特にアブラムシはウイルス病の原因となるため、初期からの防除に努めます。

6 収穫

収穫が遅れると太くなりすぎたり、す入りが多くなるため、長さ25～40cmの時に収穫します。3月から9月上旬までの播種では70～100日の生育日数で収穫となりますが、9月中旬以降の播種では翌春の収穫となります（表1）。

表1 播種日別の収量調査結果(2005年度)

播種日	調査日	調査までの日数	根長 (cm)	根の太さ (mm)	根重 (g)
3月30日	6月15日	77	23	15	33
5月26日	9月5日	102	32	22	76
7月28日	10月6日	70	26	16	40
9月30日	3月26日	177	24	11	13

品種：サラダむすめ



収穫したサラダゴボウ



サラダゴボウの栽培状況

中山間地における栽培方法

スイートコーンの作期拡大と省力栽培

育苗の省力、効率化

主な成果

- ・セル成型育苗を導入することで、種苗費の節減や早期栽培が可能になる。
- ・セルトレーは 128 穴が好ましい。表 1 に示した 3 種の培土は、いずれもトウモロコシのセル成型育苗に適していた。特に、ヤンマー培土は、軽く、扱いやすく、発芽率も最も高かった。しかし、定植が遅れ育苗期間が長くなると肥切れしやすいので注意する。
- ・播種直後の多かん水は、発芽率を大きく低下させる原因となるので絶対に避ける(表 1)。は種後のかん水量は、培土重量 1 kg に対し、ナウエル培土では 150 ~ 200g、苗一番では 100 ~ 200g、ヤンマー培土では 250 ~ 750g が好ましい。

表 1 播種後 2 日間の土壤水分状態と発芽率¹⁾

品 種	培土の種類	播種後のかん水				
		なし	少	中	やや多	多
味来 390	ナウエル	94	89	89	81	72
	苗一番	97	97	83	83	75
	ヤンマー	97	97	100	86	83
キャ ンベ ラ 90	ナウエル	81	89	89	81	64
	苗一番	89	89	75	72	58
	ヤンマー	92	92	92	72	86

注 1) 数値は、は種 4 日後の発芽率



図 1 少水管理下で生え揃ったセル成型苗

早期作型の生産安定

主な成果

- ・早期作型の作業体系について検討した結果、4月中旬に播種し、ハウス内でセル成型育苗し、4月末～5月初旬に定植すれば、7月20～26日前後に収穫できる(表 2、3)。

- ・7月中下旬収穫作型に適した品

種は、成熟期が梅雨期と重なり、糖度が低くなりやすいため、糖度が高く、極早生で早く収穫できる「味来 390」と考えられる。

・早期作型の生育はマルチ資材に左右される。緑色及び透明マルチは、黒色マルチに比べ、活着が良く、生育も旺盛となった。また、絹糸抽出が 2 日早くなり、1 穂重が大きく、先端不稔も少ないことから、早期作型では、地温が上昇する緑または透明マルチを使用する。

表 2 マルチ資材の種類と生育、収量、品質

品種	マルチ資材	草勢 ¹⁾	絹糸抽出	収穫日	穂重 (g)	先端 ²⁾ 不稔	糖度 %
味来 390	透明塩ビ	2.3	6/24.4	7/20.2	388	0.15	15.7
	透明ポリ	2.1	6/24.5	7/20.5	377	0.27	15.3
	緑色ポリ	2.0	6/24.4	7/20.3	373	0.14	15.4
	黒色ポリ	1.6	6/26.8	7/22.4	336	0.35	15.4
キャ ンベ ラ 90	透明塩ビ	2.3	6/28.0	7/25.4	442	0.10	13.8
	透明ポリ	2.0	6/28.1	7/25.5	411	0.52	13.6
	緑色ポリ	1.5	6/28.3	7/25.7	412	0.42	13.9
	黒色ポリ	0.8	6/29.5	7/26.3	390	0.70	14.4

注 1) 草勢は 5 点法で表し、数値に大きいほど生育が旺盛

2) 5 点法で表し、3 以上は商品性なし

作期の拡大と生産安定

成果の要約

- ・露地・マルチ栽培の作期拡大について検討した結果、4月上中旬～7月上旬まで、順次播種すれば、7月中旬から9月中旬まで安定的に収穫できる。
- ・栽植密度は播種時期に関わりなく、うね幅 150cm(マルチ幅 70cm、通路 80cm)、株間 30cm の2条植、栽植密度 4,440 株/10a 程度が好ましい。
- ・5月中旬以降に播種する作型では、害虫の発生が多くなるため、防除に万全を期す。また、台風等の被害を被りやすい。
- ・品種は、7月収穫作型では極早生で糖度の高い味来 390、8及び9月収穫ではモノカラー系で味来 390 とキャンベラ 90、バイカラー系ではゆめのコーンの地域適応性が高かった。



図2 左：味来 390、中：ゆめのコーン
右：キャンベラ 90

図3 獣害対策の施されたほ場

表3 播種期、株間と生育・収量

播種時期	絹糸	収穫	穂重	糖度
株間(cm)	抽出	日	g	%
4/10	25	6/17	7/15	394 17.7
	30	6/18	7/15	397 17.4
	35	6/16	7/15	406 18.2
4/30	25	6/30	7/26	336 19.1
	30	6/30	7/26	360 19.6
	35	7/ 1	7/26	386 17.8
5/20	25	7/15	8/ 1	362 16.9
	30	7/15	8/ 1	360 17.1
	35	7/15	8/ 1	387 16.7
6/10	30	7/31	8/22	461 18.8
	35	7/31	8/22	480 17.7
	40	7/31	8/22	488 17.6
6/30	30	8/16	9/15	448 18.3
	35	8/16	9/15	475 18.3
	40	8/16	9/15	486 18.4

注) 4/10、4/30、5/20 区は未熟、6/30 区は遅穫り。

表4 品種及び播種時期と生育及び収量・品質

播種時期	絹糸抽出	草丈	品質			
品種	月・日	(cm)	ほ重	不稔 ¹⁾	糖度	
4月	味来 390	6/22	161	385	0.1	18.7
	キャンベラ 90	6/27	164	432	0.3	17.6
20日	ピーターコーン	6/21	165	418	2.1	17.4
	ゆめのコーン	6/24	160	405	0	18.4
5月	味来 390	7/18	166	340	0	18.3
	キャンベラ 90	7/20	179	454	0	17.9
20日	ピーターコーン	7/18	173	406	0.4	16.4
	ゆめのコーン	7/18	156	385	0.1	17.0
6月	味来 390	8/12	148	363	0	17.7
	キャンベラ 90	8/14	167	392	0.1	18.4
20日	ピーターコーン	8/10	171	370	1.4	17.0
	ゆめのコーン	8/12	131	339	0.2	18.3

注 1) 5点法で表し、1：軽、2：中、3：甚の意
3点以上商品性なし

大粒黒ダイズを用いたエダマメ栽培

この野菜の特長及び地域適応性

作物としての特長：丹波大粒黒ダイズに代表される大粒黒ダイズは、開花が日長に影響され8月中下旬に開花する生育旺盛な晩生種である。強い光線を好むため、日照不足に見舞われたり、採光性が悪いと着莢が著しく不良となるので注意する。

栄養分及び利用法：タンパク質、カルシウム、ビタミンB₁やB₂、食物繊維に加え、ダイズに含まれないビタミンCを含む健康食品である。食味は極めて良好で、日持性に優れることから直売はもとより、高級業務用としても人気が高まっている。また、収穫を3週間遅らせ、茎葉が枯れるまで遅らせれば、黒豆として収穫できる。

山間地適応性：栽培適地は、中山間地から平坦地まで広範囲に及ぶことから、栽培地に合った栽培体系が重要となる。

作付け体系及び生産安定のポイント

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培体系												

は種 収穫

他の野菜、作物との組み合わせ：コマツナ、ホウレンソウ等の葉菜類

生産安定のポイント： 適期播種による採光性の確保、 カメムシ、マメシンクイガ等の害虫防除、 倒伏防止。

栽培手順

栽培の手順は、表1に示した通りである。生育の非常に旺盛な晩生種のため、適期は種により過繁茂を回避する。また、通路を広く確保し、採光性を良好に保つことが生産安定のポイントとなる。

また、多肥栽培を避ける。肥料が多いと茎葉が



図1 採光性の良い開花直前の草姿

表1 作業体系と栽培管理方法

目標とポイント		技術内容
ほ場準備	ほ場選定 施肥 雑草対策 播種時期	・排水の良い、風通しの良いほ場を選定する。 ・N、P、Kを成分量で5 kg/10a程度施用する ・除草剤、または黒マルチを用いる。 ・摘心栽培では6月下旬、無摘心栽培では7月上旬に行う。
は種・栽培管理	播種 間引き、補植 病害虫防除 倒伏対策	・ウイルス病に罹病していない健全な種を確保し、畝幅90cm、株間30cmで1条2粒播きする。 ・播種2～3週間後、生育の旺盛な1本に間引きする。また、必要に応じ欠株を補植する。 ・過繁茂を避け、通気性を良好に保ち、病害虫の発生しにくい環境作りと適期防除に努める。 ・7/下と8/下の2回、中耕・土寄せを行い、除草と倒伏防止を図る。
収穫	エダマメ収穫 黒豆収穫	・莢が黄緑色に変化し、種皮の紫色が浮き出てくる10月下旬に行う。 ・葉の7～8割が落葉する11月中下旬に行う

過繁茂となり、着莢が不良となる。また、根粒菌の働きを弱くするので、注意する。

播種は、摘心栽培の場合、無摘心栽培に比べ7～10日程度早播きする。摘心処理は、側枝の充実を目的に、播種25日後頃、3節で行う。マメシクイガ等の害虫の被害を受けやすいので適期防除に心がける。

倒伏対策も生産安定の重要なポイントとなる。草丈が高く、葉も大きいため、台風等の被害を被りやすい。畝の両側に数m間隔で支柱を立て、マイカー線を張り被害の軽減を図る。作業は、茎葉が混み合っていない開花前に行っておくとよい。

表2 自家採取種子の生育特性と収量・品質

種子の種類	初期生育			ウイルス病の罹病株率	枝豆収量/株		黒豆収量/株	
	発芽率	補植率	生育揃い		莢数	重量	莢数	重量
自家採取2年	82%	8%	良好	0%	93	316g	91	57g
自家採取1年	84	7	良好	0	85	295	92	56
購入種子	79	9	良好	6	87	305	82	54

注 枝豆収量：良品、新鮮重 黒豆収量：良品、乾燥重

表3 は種時期別の栽植密度と生育及び収量

は種時期	株間 cm	栽植密度 株/a	開花時期	茎重 g	主茎		良品収量/株		良品収量/m ²	
					茎長 cm	節数	莢数	重量 g	莢数	重量 g
6/30	20	560	8/20	169	80	16.1	57.0	208	317	1156
	30	370	8/20	224	81	17.8	60.5	251	224	930
7/10	10	1110	8/26	92	83	16.3	22.5	88	250	978
	20	560	8/26	151	77	16.8	38.5	154	214	856
7/20	30	370	8/26	172	73	17.0	56.8	230	210	852
	10	1110	8/31	66	69	14.3	14.5	53	161	589
	20	560	8/31	106	62	15.3	27.5	111	153	617

注)うね間：90cm、2粒播きし、2節期に1本に間引き



図2 粗植栽培の着莢状況



図3 右側の莢が黄化し種皮の紫色が透けて見え
はじめた頃が収穫適期

ソラマメの地域適応性と生産安定

この野菜の特長及び地域適応性

作物としての特長：冷涼な気候を好み、寒さには強い。生育適温は 15 ~ 20 で、25 以上では生育が劣る。マメ科作物で連作を嫌うので、同じ場所で 3 年以上連作しない。

山間地適応性：平坦地では 10 月播種で翌年 5 月に収穫するが、山間地では春先の低温を利用することで、2 月播種で 6 月に収穫できる。季節感のある野菜で、直売所の品数が少なくなる 6 月に出荷でき、山間地適応性は高い。

生産安定のポイント： アブラムシの防除によるウイルス病の回避、 赤色斑病の防除、
適期播種

栽培手順

品種：良食味で 2 ~ 3 粒莢の割合が高く、豊産性の「陵西 1 寸(協和種苗)」が好ましい。

播種及びポット育苗：播種は 2 月 15 ~ 25 日に行う。土詰めしたポット(2 寸の径 6 cm の黒ポリポット)の中央に“おはぐろ部分”を下にし、種子の先端が 3 ~ 5 mm 見える程度に 1 粒ずつ差し込む。用意する鉢数は、450 鉢/a 程度とする(畝幅 160cm, 株間 30cm の 2 条植)。なお、培土には、苗一番等の市販の育苗用土を用いる。



図 1 ソラマメのポット育苗
(水稲育苗箱 1 枚で 50 ポット育苗できる)

播種後、種子と培土をなじませるため、軽くかん水する(土の表面が湿る程度)。培土の水分過多は、腐敗の原因となるので絶対に避ける。

育苗管理：水稲の育苗施設を利用し、最低夜温 5 (0 以下では、種子が割れ、発芽が極端に遅れ、揃いも悪くなる)、昼温 25 を目安に管理する。かん水は、発芽前、後とも控え気味とする。特に、発芽前のかん水は控え、1 回目をは種 2 ~ 3 日後に軽めに行い、以後は表面の乾燥を補う程度とする。播種から 15 日程度で発芽してくる。本葉 2.5 枚まで育苗し、根鉢がくずれなくなったら本ばに定植する。また、育苗中に 1 ~ 2 回アブラムシの防除を行う。

ほ場の選定と施肥：ほ場の選定に当たっては、エンドウとの連作、ネキリムシ等の幼虫の多いほ場、風の強いほ場は避ける。肥料の種類及び施肥量は、表 1 を参考に施用する。

表1 ソラマメの作付け体系

主要品種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	肥料名	施肥量	成分量				
												N	P	K		
・陵西一寸	作業等	播種		定植	摘心	収穫					基肥	ソラマメ配合	80	8.0	6.4	6.4
		△		▲	■	□						IB化成	50	5.0	5.0	5.0
	施肥	ポット育苗		基肥	追肥					苦土石灰		120				
										肥		苦土重焼リン	10	3.5		
【目標収量】	【施肥上の留意点】										稲ワラ堆肥	2,000				
1,500 kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分を必用とするため、堆肥など有機物資材を施用して保水力を高める。 ・窒素は根粒菌による供給があり、無窒素でもあまり減収しないが、リン酸、カリを欠くと著しく減収する。 ・追肥は株の両側に施肥溝を作って施肥し、土寄せする。 										施肥成分量			13.0	14.9	11.4

畝作り、マルチ、定植:畝は、ベット幅80cm、通路 80cm、高さ 15cm 程度の平うねとし、定植 1 週間前には完成させておく。マルチは、0.02mm の黒マルチが良いが、シルバーストライプマルチを用いるとアブラムシの忌避効果がある。定植は条間30~40cm、株間30cmの2条植えとする。植え付けの深さは、種子の上部が見える程度とし、深植しない。また、植穴に害虫対策として微粒剤 2~3 g を施用する。

摘心、整枝、土寄せ:定植後、本葉 3 枚強で摘心し、分枝を促す。分枝の生育が旺盛になり、開花が始まる頃、整枝・土寄せを行う。整枝は商品性の高い 2~3 粒莢の比率を高めるために行う作業で、晴天日の日中に行う。太く節間の詰まった側枝 6 本程度を残し、他は株元から切り取る。土寄せは、あとから発生してくる無効分枝の抑制と倒伏防止のため株元がかくれる程度に行う。



図2 ウィルス罹病株
(早期に除去)



図3 収穫適期数日前
(下垂し、表皮が汚損し始めたら収穫)

表2 播種時期と1本当たりの収量

誘引	播種時期	収穫時期 ¹⁾	総収量	
			莢数	重量
有	2月17日	6/17~30	19.1	731
	3月4日	6/20~30	15.9	628
	3月19日	7/8	15.3	481
無	2月17日	6/17~30	20.5	697
	3月4日	6/20~30	14.9	572
	3月19日	7/8	13.6	439

注 1) 2/17区6/17: やや未熟、6/30: やや過熟
3/4区の6/20: 未熟、6/30: 適~やや過熟
3/19区の7/8: 適~やや過熟

病虫害防除: ウィルス病を媒介するアブラムシ防除を徹底する。他に、病害ではさび病、赤色斑点病、立ち枯れ病、菌核病、虫害では、ソラマメゾウムシ、マメハモグリバエの発生に留意する。

収穫適期: 上を向いていた莢が、水平から下向きになり、色が濃く光沢が出て、子実のふくらみが十分確認できたら収穫する。また、マメを剥いてみておはぐろの部分黄色くなっていれば収穫適期である。緑色だと若いので、数日待ったほうが良い。へその中央に一本黒い筋が入ってくると最も糖含量が高い状態で、食味がよい。この期までが出荷適期とされている。収穫適期は数日間なので適期収穫に心がける。へそ全体が黒くなったマメは、ゆでたときにほくほくした肉質になるが、糖含量が低下してくるため食味は劣る。各枝に 5~6 莢着くが、下位節と上位節莢では熟度が異なるので、2回に分けて収穫する。

表3 栽植密度と収量、品質

栽植密度 株/a	側枝本数		良品収量/株 ¹⁾		3粒以上		2粒		総収量/m ²	
	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量
444	15.4	518	9.2	395	4.0	194	5.3	201	60	2258
296	16.7	541	10.7	435	5.3	251	5.4	184	42.7	1567
222	18.5	624	13.6	543	6.4	293	7.2	250	34.4	1284

注 1) 2粒以上の莢の合計

食用ユリの生産安定と地域適応性

この野菜の特長及び地域適応性

作物としての特長：生育適温は 15 ~ 20 で、冷涼な気候を好む。土壌条件は、pH5.5 ~ 6.0 のやや酸性を好み、粘質な土壌条件下で良品が生産される。

栄養分及び利用法：野菜類に少ないタンパク質を多く含む作物。独特の味わいの高級食材で、用途も和食から洋食、菓子まで幅広い。

山間地適応性：当山間地域でも、古くから自家消費用に栽培されてきた。しかし、ウィルス病による収量、品質の低下が目立ち、直売所への出荷も激減している。山間地の気象条件に適し、且つ季節感に優れた高級食材で、「道の駅」等での直売用野菜として有望と考えられる。

作付け体系及び生産安定のポイント

月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
出荷用	—————												
種球用	—————												

球根の植え付け

ポット育苗

収穫

他の野菜、作物との組み合わせ：作期が長いため、他の作物との組み合わせは難しい。

生産安定のポイント： ウィルス病に罹病していない健全な種球の利用、 アブラムシ等の防除、 フラワーネット利用による倒伏防止

種球の養成

ポット育苗：品種は、リン片が白く、苦みのない「夕映」等を使用する。大きさ 2 g 前後の小球を発根前の 3 月上旬に 2 号黒ポットに植え付ける。用土は、市販の育苗用土を使用する。育苗はハウス内で行い、週 2 回程度、土の乾き具合をみてかん水する。防寒対策の必要はない。

定植：発根、萌芽し、根鉢がわずかに形成された段階で、黒色または白黒ダブルマルチを被覆した種芋養成用ベットに植え付ける。ベットは幅 60cm、高さ 15cm 程度を目安とし、条間 15cm、株間 10 ~ 15cm で定植する。施肥は成分量で N:1.0、P:1.5、K:1.0kg/a を全量基肥施用する。

栽培管理：倒伏対策として、予めフラワーネット等を展帳しておく。花蕾は、球根の充実を図るため、1 cm 程度の緑色期にかき取る。病害虫は、アブラムシやさび病の発生に注意し、適期防除に心がける。

掘り取り、選別：収穫は茎葉が黄化、枯死してから行う。種球を傷つけないように掘り上げ、土を落としながら、球頂部の木子や小球を切り離す。大きさ 20 ~ 50g の球根を次年度・出荷用種球として使用する。また、2 g 前後の小球は、種芋養成用に使用する。ユリは球根が乾燥すると定植後の生育が著しく不良になるので、作業時及び貯蔵中の乾燥防止に留意する。なお、70g 以上の大物や分球している球根は、種球として使用しない。

表 2 球根の大きさと収量・品質（球根 100 球当たりの収量、収穫は 10/31）

球根の 大きさ	収穫期の生育状況				総収量		重量 (g) 別の球数						
	茎長	茎重	茎径 ¹⁾	葉数	重量	個数	60 以上	50 ~ 60	40 ~ 50	30 ~ 40	20 ~ 30	10 ~ 20	
g	cm	g	mm		g								
1	61	14	3.3	37	2831	96	0	4	15	25	36	16	
2	92	32	4.5	44	4375	100	10	15	35	21	17	3	
4	117	52	5.3	56	5757	100	39	29	17	14	1	0	

注 1) 基部、中央部、先端部の直径の平均値

出荷用栽培

ほ場準備：選別の終わった種球は、遅くとも表土が凍結する 12 月初旬までに植え付ける。そのため、畝づくりは種芋を掘り取る前に、完了させておくことよい。畝の大きさは、マルチ幅 80cm、通路 60cm、高さ 15cm 程度とし、黒または白黒ダブルマルチで被覆する。施肥は肥効調節型肥料を用いた全量基肥栽培とし、成分量で N:2.5、P:3.0、K:2.5kg/a を施用する。

定植：条間 20cm、株間 20cm、栽植密度 1,430 球/a の 4 条植えとする。植え付けは、やや深植えの 15cm 程度とする。

栽培管理：倒伏対策として、予めフラワーネット等を展帳しておく。花蕾は、球根の充実を図るため、1 cm 程度の緑色期に一株単位でまとめてかき取る。病害虫については、アブラムシやさび病の発生に注意し、適期防除に心がける。

掘り取り、選別：収穫は茎葉が黄化、枯死してから行う。また、畑の土が乾燥し、落ちやすい晴天日が好ましい。球を傷つけないように掘り上げ、土を落とす。この時、リン片をこすって落とすと後で褐変し品質が低下するので注意する。水洗い、根切り後に、陰干しする。直射日光にあたると球が着色するので絶対に避ける。

貯蔵、出荷：コンテナに厚さ 0.02mm のポリエチレンフィルムを内装し、乾いたユリネを並べ、すき間に杉のオガクズを充填し、貯蔵する。オガクズの水分は手で握った際、わずかに形ができる程度とする。3 月までは常温下で貯蔵できる。4 月以降に出荷する場合は 0 下の冷蔵庫に保管する。

表 3 種球の大きさと収量・品質（収穫は 10/30）

種球の 大きさ	収穫期の生育状況				球重 g	球の大きさ		芽数 (分球)	外観品質 ¹⁾		
	茎長 cm	茎重 g	茎径 mm	葉数		長径 mm	短径 mm		形状	色艶	総合
50 ~ 70	108	192	9.7	155	298	104	92	2.4	4.1	4.3	4.2
40 ~ 50	103	168	9.2	140	281	105	89	2.3	4.1	4.2	4.2
30 ~ 40	101	167	9.0	133	269	100	89	2.2	4.3	4.4	4.4
20 ~ 30	93	140	8.5	114	248	94	88	1.7	4.2	4.2	4.2
10 ~ 20	86	106	7.5	92	209	88	84	1.6	4.2	4.3	4.2

注 1) 5 点法で表し、数値の大きいほど良好。



図 1 開花前の生育状況



図 2 出荷用のユリネ

エゴマの生産安定

極早生、多収品種の選定と生産安定 品種の特長、導入メリット

国内及び海外のエゴマ品種の中から、本県山間地域に高い適応性を持つ品種を選定した。黒皮で大粒の子実を8月中旬に収穫できる短茎の極早生種で、台風や早霜などの気象災害を回避できる。また、早期播種と密植栽培を組み合わせることで、在来種の1.5倍以上の収量が確保できる。

表1 「中国種」の生産安定のポイント

栽培ほ場	排水良好で、荒らしてないほ場
播種時期	5/10～25の直まき
栽植密度	うね幅120cm(マルチ幅60cm、通路60cm)×株間20cmの2条植
害虫防除	ネキリムシ等の害虫防除
雑草対策	黒マルチの使用

作業体系及び栽培管理方法

作業別の管理方法を表2に示した。エゴマは他の作物に比べ、初期生育が非常に緩慢であるので、雑草対策としてマルチ栽培を行う。播種適期は、5月25日頃で、播種日が早いほど開花、収穫が早くなる。作業上の都合等により、播種が6月10日以降になったり、初期生育が不良な場合は摘心せずにそのまま茎葉を伸長させ、生育量を確保する。

表2 作業体系と栽培管理方法

目標とポイント		技術内容
ほ場準備	ほ場の選定 施肥 うね作り マルチ被覆	<ul style="list-style-type: none"> 排水の良いほ場を選定する。 耕作放棄地での栽培では、雑草対策と害虫防除に万全を期す。 N、P、Kを成分量で5kg/10a程度施用する。 うね幅は120cm程度とする。マルチ幅60cm、高さ10cmの畝を作り、黒マルチで被覆する。
は種	播種時期 播種方法	<ul style="list-style-type: none"> 5/10～25日に播種する。 幅60cmのマルチに条間30cm、株間20cmの2条植えとし、1か所につき5～7粒点播する。
栽培管理	間引き 摘心 病害虫防除	<ul style="list-style-type: none"> 播種15日後頃、1回目の間引きを行い、3本程度に整理する。 播種1か月後頃、生育の揃った1～2本を残し、他は切り取る。 本葉8枚期に3～4節で摘心し、側枝の生育を促す。 摘心後と開花前に2回程度、害虫を中心に防除する。
収穫	収穫・調製	<ul style="list-style-type: none"> 開花が終わり茎葉が黄化し始める8月中下旬に基部から刈り取り、ハウス内等で乾燥させ、乾燥後脱穀する。

表3 1か所当たりの株数と生育・収量

1か所の株数	茎重 ¹⁾ g		茎長 cm	収量 ²⁾ g/m ²
	1か所	1株		
1株	201	201	104	133(97～169)
2株	192	96	98	141(109～173)
3株	193	64	94	143(118～168)

注 1) 1か所：一もと当たり、1株：株当たり

2) ()内の数値は、最小と最大

表4 摘心処理と生育・収量¹⁾

摘心 ²⁾ の有無	開花期	茎長 cm	節数	収量 g/m ²
摘心	7/19～8/6	85	6.9	134
無摘心	7/19～8/6	102	7.6	131

注 1) は種は5/25、栽植密度833株/a、摘心3～4節

2) 摘心は3.5節期、本葉6～7葉期に行った



図1 中国種、密植栽培における摘心後の生育状況



図2 中国種の開花終了時の草姿と穂（低い草丈と大きな穂が特長）

表5 播種時期と開花開始期の生育

播種時期	発芽時期	開花始めの生育状況			開花時期	収穫適期	穂の ¹⁾ 長さ	穂数 ²⁾ // 株			収量
		節数	茎長	茎葉重				大	中～小	g/m ²	
			cm	g/株		cm	本	本			
4月15日	4/29	8.6	68	226	7/3～7/30	8/10	29	41	36	149	
5月5日	5/13	9.0	86	259	7/13～8/4	8/17	22	36	54	192	
5月25日	6/1	10.2	112	378	7/31～8/13	8/29	16	20	109	226	
6月15日	6/19	9.0	87	307	8/8～8/25	9/8	16	25	70	177	
7月5日	7/9	7.8	65	140	8/21～9/4	9/15	14	15	58	144	

注 1) 1株の中で最も大きな穂の長さを測定。

2) 穂の大きさを右記の3段階に大別、大：10cm以上、中～小：2.5cm以上

愛知名倉種の生産安定

生産安定のポイントは、「中国種」と同様である。「愛知名倉種」は晩生種で開花期が日長に左右され9月初旬以降となる。そのため、播種期が早過ぎると生育が著しく旺盛となり、倒伏により著しい減収を招くことから、適期播種に心がける。播種は、省力的で、初期生育も良好な直播きとする。エゴマは、播種後の初期生育が非常に遅く、苗も徒長するので移植栽培は好ましくない。栽植密度は420株/aとする。本葉4葉期(2節)に生育の良い1本を残し、他は切除する。摘心は6～8葉期に行い、側枝の充実を図る。茎葉の刈り込みが生育、収量に及ぼす効果を表7に示した。増収効果は見られなかったが、草丈が低くなり耐風性が向上する。従って、生育が旺盛な場合、7月末～8月初旬に茎葉の刈り込みを行う。

表6 「愛知名倉種」の生産安定のポイント

ほ場条件	排水良好で、荒らしていないほ場
播種時期	7月初旬の直まき
栽植方法	うね幅120cm(マルチ幅60cm、通路60cm)×株間40cmの2条植
害虫対策	ネキリムシ等の害虫対策
雑草対策	黒マルチの使用

表7 茎葉の刈り込み処理と生育、収量

品種・刈り込みの有無	株重	草丈	穂長	子実重
	g	cm	cm	g/m ²
名倉種・有り	197	118	6.4	64
名倉種・無し	324	202	6.8	64
飛驒種・有り	261	130	6.1	67
飛驒種・無し	380	188	6.3	83

注 1) は播：5/27、刈り込み処理：8/4

新しい直売用野菜の栽培法

平成19年3月発行

愛知県農業総合試験場園芸研究部特産野菜グループ

〒498-003

弥富市前ヶ平2丁目49

電話 0567-65-4311

プロジェクト研究課題名：

「都市近郊や中山間地の条件を生かした直売供給用野菜の開発」

担当 園芸研究部特産野菜グループ

山間農業研究所園芸グループ